



Washington Japanese Language School

ワシントン日本語学校

はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>



2022年6月11日 発行 第10号

ワシントン日本語学校
校長 神戸 昭夫

[ワシントン日本語学校事務局]
HOT LINE (301)962-7415
TEL (301)962-7410
FAX (301)962-7411

星出彰彦宇宙飛行士 講演会 (6月4日)



<ご経歴>

飛行経験：3回

2008年 スペースシャトル

2012年 ソユーズ

今回(2021年)クルードラゴン
(ISS 船長に就任)

1968年 東京都生まれ

1992年 慶應義塾大学卒業

1997年 ヒューストン大学大学院
航空宇宙工学修了

1992年 宇宙開発事業団(現 JAXA)
入社、宇宙飛行士支援技師と
して従事

1999年 宇宙開発事業団(現 JAXA)
宇宙飛行士候補者選抜合格

2001年 宇宙飛行士認定

講演会は、SR 校1階の小ホールで行われました。会場等の都合で、今回は小学部5・6年生の希望者が参加しました。「ぼくもニュージャージーの補習校に通っていた。」とまずお話をいただきました。その後、3回のミッションの概略、そして、3回目の200日のミッションを5分のビデオで振り返りました。「皆さんが生まれてから常に誰かしらが宇宙で仕事をしている。宇宙ステーションは450キロの高度で地球の周りを90分で一周、一日16回地球を回っている。」とお話いただいた後、たくさんの質問に丁寧にお答えいただきました。

5・6年生からの質問

○「ピタゴラスイッチ」は難しかったですか。

○宇宙飛行士になったかったら今、小学生のうちにできることは何ですか。

○女性が宇宙に行くには筋トレが必要です。

星出彰彦宇宙飛行士からの回答

○ものすごく難しかった。週末に作っていた。失敗を繰り返しながら、なかなか一発ではうまくいかなかった。

○いろいろなことが求められている。まず健康であること、そのためには栄養バランスよく食事をとることが大事。勉強すること。いろいろなことにチャレンジすること、そしてそれぞれのことをとことん極めること—それらが違う分野でも応用が利く。チームワークが大切—家族や友達でも、いつも同じ意見で仲良くすることは難しいけれど、お互いをリスペクトしあいながら仲良くすることが大事。

○宇宙遊泳するには体を使うから筋力が大事だけれど、それ以上に地球に帰ってくことを想定して、宇宙でも毎日筋トレなどの運動をする。無重力はずっと寝たきりと同じなので、筋肉を使わないと地球に帰った時に立てなくなる。

○ラグビーボールを投げる感覚は？

○二人でパスをやった。地上と同じ感覚で投げると上に行ってしまう。地上では重力を考慮して自然に上目に投げて、いいところに投げられる。それを頭に中に入れて、まっすぐに投げた。

○涙はどのように動きますか。

○顔に着いた水はそのままそこにあって流れない。

○何歳から宇宙に行きたいと思いましたか。

○3才から7才までアメリカに住んでいた。スミソニアン博物館にも行った。その時、宇宙に行ってみたいなと思ったのがきっかけ。当時は日本人の宇宙飛行士はいなかった。高校生の時、日本人が初めて宇宙飛行士になった。そこから職業として考えた。



○宇宙という言葉を知ると、どんなことを思いますか。

○星、ブラックホール。少しずつ考えが変わってきて、実際に行ってみると人間が宇宙にいることは、問題なくできると実感した。これからは・・・月は遠くない、火星にも行ける。

○無重力の生活は大変ですか。

○慣れるまで大変だけど、慣れれば大丈夫。食事は美味しい。特にカレーライスがおいしい。お風呂はない。タオルに石鹸を付けて使う。

○宇宙で寝るときはどのように寝ますか。

○寝袋に入って、寝袋をひもで縛って固定する。個室があるので快適に寝ていた。

○発射の時、帰ってくる時はどういう感じですか。

○スペースシャトルは滑走路に着陸、ソユーズはパラシュートでドシンと着陸、ドラゴンは着水。スペースシャトルの打ち上げは固体ロケットの揺れが激しい。帰りは滑走路が一番楽。

○一番難しかった訓練は何ですか。

○宇宙飛行士である間は常に訓練をしている。たいへんだったのはロシアでの真冬のサバイバル訓練。2泊3日で1日目の夜は -10°C 、2日目は -20°C 。

○ラグビーのポジションはどこですか。

○はじめはウイング、その後スクラムハーフになった。

○なぜ、宇宙飛行士になったのですか。

○宇宙に対するあこがれ。カッコいいな、行ってみたいと思った。人類みんなが宇宙に行くときは来る。その役に立ちたい。

○子どもの時の得意な教科は何ですか。

○好きだったのは算数。難しかったけど、パズルを解くような感覚。

○水を飲むのは食べる感覚ですか。

○飲む感覚。地上と同じ。人間には飲み込む力がある。人体はふしぎなものだと思う。

○トイレはどうしていましたか。

○特殊です。すべてがぶかぶかと浮かぶ世界だから危険！ファンが回っていて、吸い込む。排泄物は缶に貯めて、無人の宇宙船で捨てる。おしっこはリサイクルされて飲み水になる。美味しいよ！（笑）地上も同じ、地球が汚水をきれいにしている。

○帰ってきてどれくらいで歩けるようになりますか。

○宇宙で毎日運動をしていたので、筋力的にはすぐ立ち上がって歩くことはできた。でもバランス感覚は弱っていた。45日リハビリをして戻す。今回は1週間くらいで車の運転ができるようになった。日常生活に戻るにはそのくらいと感じた。

○また行きますか。

また行きたい。次は月を目指したい。参加できたらいいなと思っている。

○宇宙空間（外）に出るときはどんな感覚ですか。

仕事も体も大変。パートナーと助け合ってしっかりと仕事をする。

○宇宙飛行士になってよかったことは何ですか。

いろいろなところでいろいろな人に会えること。宇宙に熱い思いを持っている人に会えること、皆さんに会えること。

○宇宙が恋しくなることはありますか。

さっきあの5分間の映像を見てそう思った。

○呼吸が辛いと思ったことはありますか。

ISSでは酸素は持って行ったり作ったりしている。水から酸素を作ることもしできる。苦しいなと思ったことはない。二酸化炭素の濃度が高くなると頭が痛くなるので、注意した。

好天の下、青空ピクニックデー(中・高)

